



バッドンタ・ウ・ケサラ・大長老
 “アビダジャマハーラッタグル”
 「正法によって国を導く偉大な師」
 ミャンマー政府より勲章授与
 ミャンマーサンガ団体の元副長
 ラインサーヤ マハーアウンミエ僧院僧院長



日本上座仏教修道会



祝 浄心庵戒壇

認定記念

Sāsana Sirī Dhara Sīmā

お釈迦さまの教えが伝わるために品位を保つ浄心庵戒壇



バッドンタ・ウ・ニャーヌッタラ大長老
 “アッガマハーサダンマジョーテイカダジャ”
 「正法の光を世界に輝かせる最上の偉大な智慧者」
 ミャンマー政府より勲章授与
 ラインサーヤ マハーアウンミエ僧院副僧院長
 日本上座仏教修道会大長老

新 浄心庵戒壇 認定記念

Sāsana Sirī Dhara Sīmā

(お釈迦さまの教えが伝わるために品位を保つ浄心庵戒壇)

この度、ミャンマー国より来庵されたケサラ大長老をはじめ 10 名の比丘サンガの皆様は、2017 年 10 月 27 日（金）から 12 月 5 日（火）までの 40 日間、お元気で過ごされ、「浄心庵シーマー（戒壇）認定儀式」をはじめ、「比丘出家儀式」、「カティーナ シーワラ ダーナ」などの予定されていた 14 の儀式をすべて無事に終えられました。（この 14 の儀式については次頁よりご報告いたします）。

「浄心庵シーマー（戒壇）認定儀式」は、テーラワダ仏教において最も重要とされ、それが浄心庵精舎で行われることは、インターネットを通して在日ミャンマー人仏教徒の間に広まったこともあり、儀式当日には、三宝を信じる日本人、ミャンマー人をはじめとする人々が全国から来庵し、参列者は予想をはるかに超え、総勢 400～500 名ほどになりました。

新しい浄心庵戒壇は、ケサラ大長老によって「Sāsana Sirī Dhara Sīmā（お釈迦さまの教えが伝わるために品位を保つ浄心庵戒壇）」と名付けられました。

儀式が終わった今もなお、三宝を信じる人々が絶えず訪れ、浄心庵「Sāsana Sirī Dhara Sīmā」をご覧になって、三宝に尊敬合掌礼拝して喜びの心で帰られます。

比丘サンガの戒・定・慧のエネルギーによって、特別な土地となったこの「Sāsana Sirī Dhara Sīmā（お釈迦さまの教えが伝わるために品位を保つ浄心庵戒壇）」が存在する限り、当会会員一同、関係する日本人、ミャンマー人の皆さま、そしてこの日本の地に、善い結果をもたらすことと存じます。当会にとって、かつてない特別な得難い功德を積みさせていただきました。

三宝をはじめ、この儀式のためにご尽力くださいましたケサラ大長老、ニャーヌッタラ大長老、お二人の大長老のご縁により当会の招聘に応じてくださった 10 名のミャンマー比丘サンガの皆様と、9 名の日本在住のミャンマー比丘サンガの皆様、そして、元駐日ミャンマー国大使 H.E.U Khin Maung Tin 閣下、駐日ミャンマー国大使 H.E U Thurein Thant Zin 閣下、ミャンマー連邦大使館武官 H.E U Soe Mint 大佐、株式会社入江三宅設計事務所（IMA）代表取締役 宮本良明様、同ヤンゴン事務所取締役 Soe Win Tun 様、同計画・技術部 担当部長 坂本真一様、ミャンマー国と日本在住のミャンマー人信者の皆さま、儀式のための駐車場や看板を建てるための土地を快くご提供して下さった地元の皆さま、そして日本上座仏教修道会の皆さまと、諸々の関係者の皆さまのお心のこもった、あたたかいご支援とご協力に、心から深く感謝申し上げます。そして皆さまの功德に心から、随喜申し上げます。

儀式は無事に終わりましたが、これですべてが終わったわけではなく、これからも大長老のお導きのもと、純粋なお釈迦さまの教えが永く存在できますよう、八正道（戒・定・慧）を実践しながら、次への目標である「シーマー（戒壇）・仏塔建立」が成功するまで、上座仏教修道会は、皆さまと共に、正精進して参ります。今後ともご支援ご協力をお願い申し上げます。

仏暦 2561 年 西暦 2018 年 平成 30 年 1 月 1 日 満月のウボサタの日
 日本上座仏教修道会 代表 吉田 郁子



ရဟန်းသံဃာတော်များ
သိမ်ခြေသန့်စင်အောင်
သိမ်နုတ်ပွဲ ကျင်းပပွဲ

28 October - 2 November 2017



日本上座仏教修道会



比丘サンガによる
シーマー・戒壇の土地解除儀式

仏暦 2561 年 平成 29 年

10月28日(土)～11月2日(木)

ケサラ大長老をはじめ 10 名のミャンマー比丘サンガご来庵 ～比丘サンガ 40 日間のご活動 (14 の儀式)～

◎ケサラ大長老をはじめ 10 名の ミャンマー比丘サンガご来日



2017 年 10 月 27 日 (金) 新月のウポサタの日、午前 6 時 50 分、成田国際空港において、御年 90 歳のケサラ大長老をはじめとして 10 名の比丘サンガは、「浄心庵シーマー (戒壇)・認定儀式」をはじめ、テーラワダ仏教の伝統に則した儀式を執り行うため、当会の招聘に応じて、カッピア (比丘に相応しくなるようにお世話する人) 2 名とともに、前日ヤンゴン国際空港を夜 9 時 45 分発の飛行機で出発して、日本の地にお元気なお姿で到着されました。

成田国際空港到着ゲートには、会員有志他 20 名が仏教旗を手にして、比丘サンガをお迎えいたしました。この日を待ちわびて、勤務前に来られた方、仕事を休んで来られた方、空港近隣のホテルに宿泊して来られた方、遠方の方、前日から浄心庵精舎でお迎えの準備をしていた方々などが集まりました。到着ゲートから、無事に出て来られたケサラ大長老をはじめ 12 名様を、旗をはためかせながら歓迎し、儀式のために遠路はるばる気候が異なる日本の地へお越しくださいましたことを心から深く感謝しながら、一人一人が思いを込めて尊敬合掌でご挨拶いたしました。

その後、比丘サンガを乗せたお車が浄心庵へ移動中、日本人たちはさらに車で先回りして浄心庵へ向かいました。



9 時 30 分頃、ケサラ大長老をはじめ比丘サンガ他 12 名様が、浄心庵精舎へ無事到着されました。浄心庵精舎の入口で車から降りられたところを、先回りして成田空港で出迎えた会員有志ほか浄心庵修行者は、再び仏教旗を手にしてはためかせながら、お出迎えいたしました。

ケサラ大長老を先頭に、比丘サンガたちは真直ぐに列をなして、浄心庵・瞑想堂へご移動されました。その参道は、シーマー (戒壇) 東側から浄心庵・瞑想堂まで紅白の垂れ幕で飾られ、精舎全域に荘厳された鮮やかな花々が浄らかな香りを放ち、比丘サンガの行く先をご光来いたしました。天候も青空が高く広がるさわやかな秋晴れで、澄み切った空気の中に太陽の光が差し込み、その輝く光に、浄心庵精舎土地建物を護ってくださる神々・梵天をはじめすべての生命が喜び、待ち焦がれていたようでした。

そして、浄心庵・瞑想堂 2 階へ上がり、会員有志の方が準備した絢爛豪華な金の屏風と色とりどりの花々でお迎えいたしました。



ケサラ大長老は、この度3回目のご来庵、ワーヤーマーウダ大長老(83)は、2回目のご来庵になります。他8名の比丘サンガの皆さまは、今回が初めてのご来庵でした。

ケサラ大長老をはじめ比丘サンガ10名は、浄心庵ブツダの前で、三宝に尊敬合掌礼拝されました。

その後、国を越え、浄心庵 Simā (戒壇) 認定儀式のために来日された尊い比丘サンガさまに、感謝の意を込めて尊敬合掌礼拝いたしました。ケサラ大長老のお導きの下、オーカーサ礼拝偈を念じ唱和し、祝福をいただきました。この日を待ちわびていた会員有志たちは、喜びで満ち溢れました。



ご到着後早速、浄心庵シーマー(戒壇)・仏塔建立予定地へ移動し、40日間宿泊される浄心庵精舎やメンタルフレンドハウスなど敷地内をご案内し、昼食ご供養の時間まで休憩されました。

◎ご来庵初めてとなる

比丘サンガ11名に昼食ご供養



同日10時30分、メンタルフレンドハウス1階において、会員、関係者からの昼食のご供養が行なわれました。浄心庵から、食事ご供養の合図となる木の音が、浄心庵精舎に静かに響き渡り、続いて、メンタルフレンドハウスからは、梵鐘の浄らかな鐘の音が静かにこだましました。

比丘サンガは、浄心庵の前に真っ直ぐな列をなして、シーマー(戒壇)・仏塔建立予定地へ入り、メンタルフレンドハウスまで托鉢されました。



比丘サンガのご供養のために、会員の皆様ほかたくさんの方々から、浄心庵精舎に様々な食材をお届けいただきました。



当日ご供養に参加した会員有志は、托鉢される比丘の鉢の中に、手づからご供養いたしました。

◎シーマー(戒壇)土地解除の儀式の準備



同日、午後1時30分より、シーマー(戒壇)・仏塔建立予定地において、ケサラ大長老を導師として、これから始まる10月28日(土)~11月2日(木)までの間、「Sīmā samūhanana kammavācā」を唱える「シーマー(戒壇)土地解除の儀式」(詳細については次号で説明)のための準備が行われました。

◎第20回「シーマー(戒壇)・仏塔建立

プロジェクト会議~比丘サンガ40日間のご活動~

同日、夕方、浄心庵精舎内のメンタルフレンドハウス1階において、大長老のお導きで、比丘サンガ40日間の活動「14の儀式」について、すべての儀式が成功するように、細かい配慮が行き届くように、慎重に、ご相談とご確認をいたしました。比丘サンガがご帰国される12月5日(火)までの期間には、それぞれの儀式のために、必要に応じてその都度、幾度となくプロジェクト会議が行われました。



※「比丘サンガ40日間のご活動(14の儀式)」についての報告は次号に引き続き掲載いたします。

(次号へ続く)